

令和 7 年度

事業所名： グループホーム えがおの花大釜（すみれ）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜（すみれ）		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72-6		
自己評価作成日	令和7年11月20日	評価結果市町村受理日	令和8年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」を理解した支援を行い、ゆったりと・のんびりと・穏やかに過ごせる場所であるように努めています。入居前からの「縁」も、入居してできた「縁」も大切にしたい暮らしができるような支援を行っています。入居されている皆様より安心して過ごすことができるよう、利用者様に担当の職員が付き、ご家族様と一緒に心身の変化と向き合いながら、一人ひとりが自分らしくすごせる場になるよう心掛けております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの事業所は、滝沢市郊外の国道沿いの閑静な新興住宅地に立地し、東北自動車道の出入り口にも近く交通アクセスが良い場所にある。広い敷地には菜園もあり、イモ類、カボチャ、トマト等を利用者と一緒に栽培している。利用者と家族や友人、知人、そして地域との「縁」を大切にする暮らしを基本理念とし、その人らしくゆったりと、のんびりと過ごしていただけるよう利用者一人ひとりに担当者を置き、相談しやすい体制づくりに取り組んでいる。月に1回、担当者が利用者の様子を写真やお手紙で家族に伝え「縁」が途切れないよう支援している。また、利用者の居室前に「メモリアルボックス」を設置し、持参した思い出の品や写真に加え、入居後の写真や職員と一緒に作った作品等が保管されいつでも見られるようにしている。運営推進会議に出席しやすいよう委員に年間予定表を送付している。特に、利用者家族には、すべての家族を運営推進委員とし、全員に案内を送付する等、家族との関係を大切にするとともに意見等の把握に努めている。ちなみに家族の運営推進協議会への参加は年間延べ10名以上となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	定期的に研修で取り上げるなどして職員間での共有に努めている。目につく場所に掲示し、意識付けを行っている。	基本理念を「縁」とし、理念に沿って事業所の運営方針を定め、人や地域とのこれまでの「縁」に加え、新たな「縁」を大切に暮らしていくことを目標としている。また、職員の行動指針も定め、「感謝、思いやり」を持ち、「元気で、明るく」そして「責任と誇り」をもった支援を行うこととしている。これらは、玄関や事務室に掲示するとともに、毎朝唱和し職員間で共有するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事にもできるだけ参加するようにしている。	町内会に加入し回覧板で地域の情報を把握している。地域の理解により町内清掃や雪かき等は免除していただいている。まちかど相談に対応し入居に関する相談が多い。また、事業所の敬老会や滝沢市内4カ所のグループホームで月1回開催している「認知症カフェ」を通じた地域交流や高校生の視察の受け入れ等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症まちかど相談」「認知症カフェ」など、市の委託事業を通じて地域の人との関わりが持てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	随時報告を行い、話し合いで出された意見を運営に活かしている。	自治会長や民生委員、訪問看護師、滝沢南地域包括支援センター職員、JAライフサポート居宅介護支援事業所の介護支援専門員、利用者家族が委員となり2カ月に1回開催している。予め年間の開催予定表を送付し委員が参加しやすいように工夫している。特に利用者家族全員を委員とし、延べ10人以上の参加をいただいている。会議では、活動状況やヒアリハット報告等を行い活発な意見交換をしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当課・地域包括支援センターと随時連携を取り、相談や指導を受けている。	滝沢市の担当課とは、要介護認定申請に際して窓口に出向いているほか、随時電話やメールで様々な相談等をさせていただいている。市の主催する地域ネットワーク会議にはできるだけ参加するようにしている。また、市の委託を受けている相談員2名が、年4回来所し利用者の相談を受けている。相談内容については、その都度事業所にも報告があり、年1回は市の職員を中心に情報共有する機会を持っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に努めている。夜間転倒リスクの高い利用者様について、夜勤中など対応が難しい事を事前にご家族様にお話している	身体拘束適正化指針を策定している。身体拘束委員会を3か月に1回開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間の転倒予防のため、両ユニット5名がセンサーを利用している。スピーチロックについては、「まって」「座っていて」等と言ってしまうことがあり、周囲にいた職員や管理者が「言い方を気をつけてね」等と声かけて改善に努めている。夜間は防犯のため施錠している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	肉体的には勿論だが、利用者に対しスピーチロックなどを行わないようユニット会議等でも職員に共有している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要性を認められる利用者様については、ご家族に制度の概要や手続き方法についての情報提供を行っていった。職員間で知識を深めるための研修はできていない。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してはご本人及びご家族に丁寧に説明を行い、質問や疑問点があれば随時お答えいき、安心して入居いただけるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ふだんの生活の中で聞かれた要望、ご家族訪問時に聞かれた要望や意見などを職員で共有し、ケアの向上に努めている。	居室担当者が、毎月のお便りや写真を送付するとともに、広報誌「すまいる」を発行し、利用者や事業所の生活の様子を家族に伝えている。来所時や電話の際に居室担当者が家族からの相談を受けるようにしている。家族からは窓口がはっきりしていて連絡しやすい、親身に相談に乗ってくれるとの声もあり、毎週電話で様子を聞いてくる家族もいる等、意見や要望が言いやすい環境づくりが進んでいる。利用者からは、食べたい物の要望が多い。また、利用者や家族の要望等は記録し申し送り時に共有するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議のほか、ふだんの業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	毎月のユニット会議において意見や提案を募るとともに、管理者が朝夕の申し送り時を利用して職員から意見等を聴取し、また、日常の業務の中で職員の意向の把握に努めている。イベントや企画の提案、通院等の支援方法、備品や設備の修繕等が話題になることが多い。職員で協議し、管理者で対応が可能なものはすぐに具体化し、権限を越えるものは所長会議で協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間の遵守に努め、給与水準や労働条件等については本社や他事業所と情報を共有し、安心して働ける環境づくりに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にも積極的に参加させたいと思っているが、シフトの関係でなかなかできない状態。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者はオレンジカフェなどで他の施設の方と交流はあるが、職員はなかなか同業者と交流する機会を持っていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人からの要望、困っていることなどを傾聴するよう努めている。安心して過ごしていただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の要望や困っていることを傾聴し、初期の信頼関係づくりに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の思いやご家族の意見を聞き、情報や記録を活用しながら必要な支援を見極め、検討・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物たたみや新聞折りなど出来ることをしていただき、共に生活する関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話や手紙で施設での様子をお伝えしたり、通院対応をしていただいたりなど、共に本人を支えていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会などの希望があれば対応しているが、施設から家族以外の方との関係に関しては積極的に動いてはいない	毎月外泊する方、家族と通院する方、友人から手紙が来る方などもあるが、「なじみ」との関係継続が難しい状況になってきている。永年親しんできた「チャグチャグ馬っこ」の見学に利用者連れ出し、年4回事業所を訪れる介護相談員や定期的に訪れる看護師、理容師が新しい馴染みの人となっている。「メモリアルボックス」を設け、入居後の写真等も入れ、新たな「縁」も大切にする工夫をし、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクなどをするとき、なるべく全員に声をかけて参加を促したり、苦手な部分は職員と一緒にいたりするなどして「一緒に楽しめる」よう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	気に掛けてはいるが、なかなか連絡などは取っていない		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの希望や意向の把握に努め、スタッフ間で話し合いながら実現できる物は実現できるよう、また個人個人にとって適切なケアができるよう心がけている。	日常の支援の中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通の難しい利用者が2名いるが、これまでの情報と表情や仕草等から思いの把握に努めている。把握した内容は、当日勤務している職員で共有するとともに、申し送りが必要な内容を記録し職員全員で共有して対応することとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族やケアマネジャーなどからの情報を参考に、職員間で情報を共有し把握に努めている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りなどの情報を共有し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ふだんの会話などから意向を聞きつつ、毎月のユニット会議で職員の意見も取り入れ介護計画に盛り込めるよう配慮している。	基本的に6ヵ月に1回見直している。介護計画作成担当者と居室担当者がモニタリングを行い、かかりつけ医や訪問看護師、家族の意向を取り入れて原案を作成し、その原案を基にユニット会議で協議している。そのうえで、居室担当者と介護計画作成担当者、家族が参加した担当者会議を開催し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気付いたことなど記録、申し送りをし、職員間で情報共有をしながら実践や、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の要望に対し、施設として出来ることに関して柔軟に対応できるよう努めている		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	相談員が来所し、利用者様からお話を聞き、困っていることなどを教えていただいている。運営推進会議での情報を職員間で共有している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。一人ひとりの状態にあった医療の受け方(通院・訪問診療)ができるよう配慮している。	家族や利用者の希望により、入居前のかかりつけ医を受診している。通院は家族同行を基本とし、受診する時は、連絡用メモを作成して利用者の体調や生活状況を伝え、医療機関と情報共有できるよう取り組んでいる。家族が遠方におり同行が難しい利用者は、事業所の職員が送迎している。薬局を統一し、定期的に訪問してもらい投薬内容の説明や誤薬防止の助言などを受けている。また、訪問看護師が、健康観察のため週1回来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと連携し、週に1度は健康状態の確認をしていただき、気になることがあれば相談したり、異変あるときにはいつでも相談できる態勢をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援に関する情報を医療機関に提供している。退院後も円滑に受け入れが出来るように病院と連絡を取っている		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重症化した際などの説明をし、状況に応じて主治医・家族と情報交換・意見交換を行い、家族と共にチームで支援している。	重度化対応に関する指針を策定している。入居時に家族や利用者に事業所でできる事やできない事を説明している。また、重度化が進んだ時点で、支援内容や他の施設の利用等について再度家族と協議している。看取りは、医療的支援が十分でないことから行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	24時間訪問看護に連絡できる体制とAEDを設置しているが、定期的な訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は行えているが、地域との協力体制を築いていくには工夫が必要。	ハザードマップ上は水害の対象区域になっていないことから、火災を想定した避難訓練を年2回行っており、別途、夜間を想定した訓練も日中に実施している。セコムの子供防犯システムに加入し、熱煙感知器やスプリンクラーを設置している。一時的な避難場所は駐車場としている。職員全員が30分以内に駆けつける連絡体制が整っている。食料3日分、水、缶詰、カセットコンロを備蓄しているほか、太陽光発電による電力の確保もできている。	夜間を想定した避難訓練を実施するなど、災害対策に積極的に取り組んでいます。今後は、運営推進会議の委員となっている町内会長や民生委員の協力を得ながら、近隣住民との協力体制を築くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症を理解し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めているが、時と場面によっては十分でないこともある。	利用者一人ひとりを尊重し言葉かけ等を配慮して支援している。利用者の呼称や写真の掲載等については入居時に意向を確認しており、利用者の1人が外部に写真が出ることを希望しないことから、意向に沿って対応している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の進行に伴い難しくなっている方もいるが、出来るだけ自分で決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく利用者様の意向に沿って、その人のペースに合わせるようにしているが、職員の業務を優先させてしまう時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で選べる人には選んでもらうようにしている。通院の際などは綺麗な洋服を提案したりしている。2ヶ月に1度訪問理容に来てもらっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日には何を食べたいか事前に聞きメニューに取り入れたり、普段の会話の中からどのような物が食べたいかを聞き出すようにしている。前は食器拭きなど手伝って貰っていたが、認知症の進行により難しくなってきた	朝食は、ご飯と味噌汁を職員が手作りし、その他の主菜や副菜等は委託している。昼食や夕食は、利用者の要望も取り入れ職員が調理しており、ジャガイモやサツマイモ、南瓜、トマト等、事業所の菜園で職員と一緒に収穫した野菜を使って楽しみながら提供している。誕生会は、好きな料理を確認しケーキと一緒に提供しており、利用者の楽しみとなっている。大晦日は、お寿司やお蕎麦、敬老会はお弁当にする等、行事食も楽しみのあるものとなっている。ゼリーやホットケーキ等の手作りおやつも楽しんで食べていただいている。利用者も下膳等できる事を手伝っている。使用する食器等は使い慣れたものを持参してもらっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分量などは記録し、排便状況などもみながら必要な栄養や水分など、献立ソフトを使用しながら提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを促している。一部介助や全介助などにて清潔の保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の声掛けなどしているが排泄の自立が難しくなっている利用者が多く、見守りの必要な方が多いが、排泄のパターンやサインを読み取り支援につなげている。	現在、自立している利用者は両ユニットで3名いる。他の利用者はリハビリパンツとパットを使用してトイレでの排泄支援に取り組んでいるが、夜間にポータブルトイレを使用している利用者は7人いる。排泄に関する24時間シートを活用し、誘導のタイミングや方法、便秘の有無等を職員間で共有して対応している。誘導の声掛けや排泄失敗の際には、本人の心情等を配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を記録し、水分補給や下剤の調節、運動への促しなどの支援を行っている。ふだんから野菜の多い食事作りを心がけている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本は順番で入浴をしていただいているが、本人の意向も確認した上でスケジュールを組んでいる。ゆったりと楽しく入浴できるよう声かけや介助を行っている。	週2回の入浴を基本としている。毎日入浴できる状態にあり、利用者の希望等により入浴日時を変更することもある。お湯は個人ごとに張り替え、入浴後の保湿や水分補給等にも時間をかける等、リラックスして入浴を楽しむことができるように工夫している。30分以上入浴を楽しむ方もいる。また、入浴介助時には身体状況も確認している。衣服の着脱時等におけるプライバシーについても配慮して支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべくメリハリのある生活リズムを作ることを心掛けているが、個々の利用者の体調や希望に合わせて休息が取れるようにしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬情報を利用者ごとにまとめ、直ぐに見れるようにしている。内服薬の変更があった際は申し送りなどで情報共有し、状態の観察を記録しながら主治医と情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	居室の掃除や洗濯物たたみなど出来る範囲でお手伝いをしてもらっている。ジグソーパズルや雑誌、新聞なども準備し、楽しめるように支援している	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	時期によっては感染症対策の為外出を控えている時期もある。家族との外出支援などは行っているが、本人が当日に希望し職員と外出などは行っていない	近くのスーパーに買い物に行く方は3人いるが、ふだん散歩やお出かけ等の外出希望が少なく、ベランダ等で外気浴を行っていることが多い。各棟ごとに定期的に外出して、花見や紅葉狩り、チャグチャグ馬この見学等を楽しんでいる。また、家族との通院時に外食したり、外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額のお金(小銭)を所持している方もいるが、「なくなった」と落ち着かなくなる様子もあるため、基本的には事務所で管理し、希望があれば一緒に買いにいたり、代わりに買って来たりすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いただいた手紙は利用者ごとにファイリングし、本人が見れるようにしている。ご家族や手紙が来た方に年賀状を出すための支援はしている。家族に電話をかけてほしいと希望される方については、自分ではかけることができないので支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感が感じられるような装飾などの工夫をしている。利用者と一緒に飾り付けを作ったりするなど、一緒に楽しみながら出来るようにしている。	共有スペースは広く、クリーム色で統一され、明るく、落ち着いた雰囲気となっている。エアコン、加湿器等により快適な温度管理をしている。南向きで採光も十分にあり、また外の光を浴びることができるベランダもある。ホールには、テレビ、テーブル、ソファ、畳敷きのスペース等があり、壁には季節を感じられる装飾が施されている。利用者が写真を眺めたり、テレビを見たり、思い思いにくつろげる空間となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の関係性を考慮しながらリビングのソファや食席などを使っていたり、テレビを見たり会話を楽しんだり自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族にはご自宅で使っていたものがあればそちらを持ってきていただくようお願いをし、少しでも自宅を感じれるように配慮している	居室にベッドやクローゼット、洗面台、エアコンを設置しており、テレビやタンス等を自由に持ち込めることとしている。居室空間はゆったり確保され、思い思いに写真や絵などが飾られている。また、居室ドアの横に「メモリアルボックス」があり、入居前後の思い出の品や写真が入れられており、いつでも家族の写真などを眺めて楽しむことできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室などはわかるように張り紙をし、本人が確認できるようにしている。利用者に危険が及ばないように家具などの配置を行っている		